

# 千住宿の誕生

一人の集まる宿場、千住

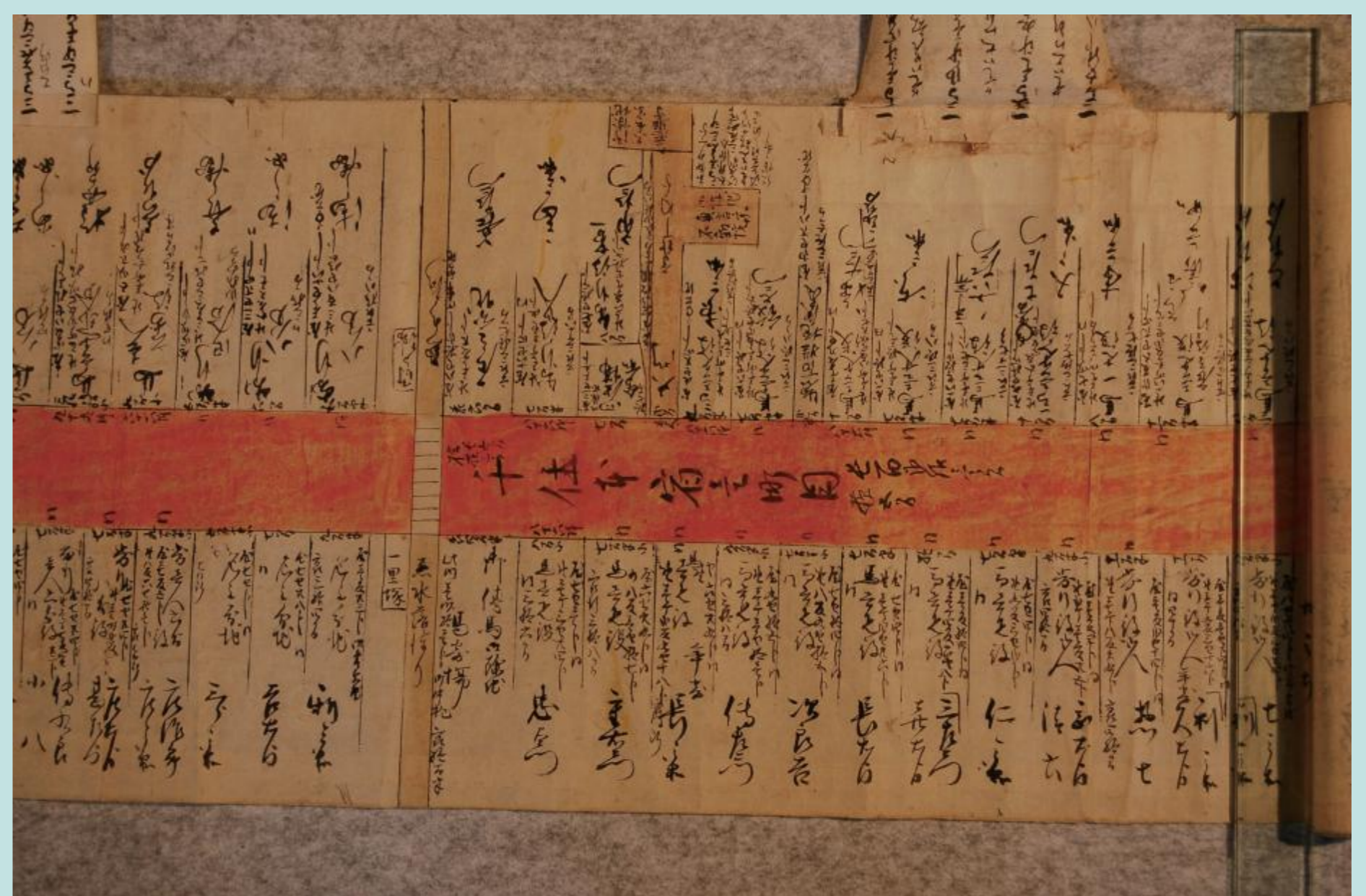


江戸四宿の一つに数えられる千住宿は、日光道中、奥州道中の初宿であり、水戸佐倉道などの諸道が分岐する交通の要所として発展してきました。

千住宿の建設は、寛永2（1625）年にまで遡ります。当初は一丁目から五丁目まででしたが、次第に交通量が増大しはじめると、掃部宿（1658年。河原町・橋戸町も含む）や小塚原町・中村町（1660年）が新たに加えられ、「千住八ヶ町」が形成されました。以後、千住宿は、商店や職人が集まる、流通の町として大いに繁栄しました。



▲石出掃部頭吉胤像（石出家蔵・部分）近世の初頭、千住大橋の架橋や掃部宿の開発に尽力した。



▲千住宿伝馬割図（高田家文書・部分）